

複数のトンネルを持つ STUN Basic

目次

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[設定](#)

[ネットワーク図](#)

[設定](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

[はじめに](#)

このドキュメントでは、1つのIPネットワーク内で複数のトンネルを使用できる設定例を紹介します。

[前提条件](#)

[要件](#)

このドキュメントに関しては個別の要件はありません。

[使用するコンポーネント](#)

このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

[表記法](#)

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

[設定](#)

この項では、このドキュメントで説明する機能の設定に必要な情報を提供します。

注: このドキュメントで使用されているコマンドの詳細を調べるには、[Command Lookup Tool](#) ([登録ユーザ専用](#)) を使用してください。

ネットワーク図

このドキュメントでは、次のネットワーク構成を使用しています。

設定

このドキュメントでは、次の設定を使用します。

ルータの設定	
ルータ A	ルータ B
<pre>stun peer-name 1.0.0.1 stun protocol-group 9 basic stun protocol-group 13 basic interface serial 0 encapsulation stun stun group 9 stun route all tcp 5.0.0.1 interface serial 1 encapsulation stun stun group 13 stun route all tcp 5.0.0.1 interface loopback 0 ip address 1.0.0.1 255.255.255.0</pre>	<pre>stun peer-name 5.0.0.1 stun protocol-group 9 basic stun protocol-group 13 basic interface serial 0 encapsulation stun stun group 9 stun route all tcp 1.0.0.1 interface serial 1 encapsulation stun stun group 13 stun route all tcp 1.0.0.1 interface loopback 0 ip address 5.0.0.1 255.255.255.0</pre>

注: 図には示されていませんが、DCE によってクロッキングを提供する必要があります。これを行う最も簡単な方法は、ルータ側で Cisco DCE ケーブルを使用し、**configure clockrate** コマンドを使用することです。説明を簡単にするため、IP ルーティングと WAN の設定は表示していません。

この設定は、1 つの IP ネットワーク内で複数のトンネルを使用できることを示しています。トンネルが既存のシリアル回線を拡張または置換することに注意してください。この例では、ハードウェアとトンネルの間に 1 対 1 の相関関係があります。詳細については、『[シリアルトンネリング \(STUN\) の設定とトラブルシューティング](#)』を参照してください。

確認

現在、この設定に使用できる確認手順はありません。

[Output Interpreter Tool](#) (OIT) ([登録ユーザ専用](#)) では、特定の **show** コマンドがサポートされています。OIT を使用して、**show** コマンド出力の解析を表示できます。

トラブルシューティング

現在のところ、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。

関連情報

- [STUN/BSTUN サポート](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)